

3月期定例番組審議会議事録

1. 開催の日時 平成30年3月8日(木) 午前11時

2. 開催の場所 栃木放送本社会議室

3. 委員の出席 委員総数9名
出席委員4名

出席委員名	委員長	増田仲夫
	委員	竹内明子
	委員	荒川政利
	委員	平野博章

局側出席者名	代表取締役社長	大塚幹夫
	報道制作局長	川島育郎

4. 議 題

- (1) 「大塚徹の明快人間学」について
毎週日曜 18:45~19:00 本放送 翌週日曜 7:15~再放送
(平成30年2月4日(日)~25日(日) 放送 再放送4回)
報道制作局 川島育郎

- (2) その他

5. 議事内容

(1) 「大塚徹の明快人間学」について

試聴番組：2月4日～25日に放送した4本の番組を予め試聴。

議題説明：報道制作局の川島が番組の企画・制作内容について説明した。

経営コンサルタントとして全国各地で講演活動を行っている大塚徹氏が出演し、企業経営や人間学、人生学等をテーマとした番組。1989年のスタート以来、約29年・1400回を超える長寿番組であることを説明して審議に入る。

各委員からは、

- これまでにもラジオで直接、何回も聴いたことがある。今回あらためて聴いたが、挨拶の仕方など当然でもっともなことが多く、自分のところの職員にも聴かせたい。独特な語り口もよく、続けられるだけ続けてほしい。
- 本質的な話で内容はよく理解できる。しかし、さすがに番組放送が長期間すぎると思う。ぜひ大塚氏に続く新しい人材をパーソナリティとして発掘してほしい。
- 自分としては、こういう道徳的なものは好きではない。内容は間違っていないが、古いタイプだと思う。企業で呼ぶなら共感は得られると思うが、ラジオ的には一回聴けば十分。
- 1千数百回という回数は半端ではない。何でこんなに続くのか興味を持ちながら聴いた。それぞれのテーマについて十分準備をしておき、語りかけるような話し方など勉強になった。繰り返しながら、しかも咀嚼して説明している話し方は、ラジオを聴くという部分で参考になった。
- 挨拶、敬語、お辞儀など社員研修に使いたい内容。普遍的であるがゆえにファンが多いのではないか。このような番組は「繰り返し」でよいと思う。
- 大塚氏の人生は波乱万丈なので、自分の体験談を踏まえた内容をもっと盛り込んで欲しいと思った。
- 次の世代に向けて、説教的なものではなく、若い人たちの感覚を取り入れたこの種の番組を開発してほしい。
- 若い人がこの番組を聴いているとは決して思わないが、親世代や会社の上司などには参考になる。
- 自分は体育会系なので、特に「挨拶」の効用は役に立った。

当社としては、これらの意見をもとに、今後の番組制作や広報に取り組んでいきたい旨を、各委員に伝えた。

(2) その他

平野委員が3月末で現職を退任することを受けて、委員の辞任を表明。了承した。

6. 審議内容

上記の通りであり、特に審議決定し、答申すべきものはなかった。

7. 番組審議会の答申および意見の概要の公表

- ① 社の番組「栃木放送からのお知らせ」
(平成30年3月18日(日) 午前8時5分放送)
- ② 社のホームページに掲載(平成30年3月23日～)
- ③ 社事務局に議事録備え置き(平成30年3月18日～)

以上